

社会学演習Ⅳ

科目ナンバリング SEM-402
必修 2単位

中谷 直司

1. 授業の概要(ねらい)

本ゼミは、国際関係論と政治学の枠組を用いて、国際社会と日本の関係を考察することを大きな共通テーマとします。前期に新書の読解・プレゼン・ディスカッションを通じて習得した知識と考え方を踏まえて、後期では、まずもう少し専門的な教科書を使い、国際関係研究・政治学研究についての理解と知見を深めます。その上で、各自の卒研の構想を発表し、その内容にもとづいた文献の読解と中間報告を実施します(3年生)。

【教科書について】

政治学の方法論には大きく二つあります。一つは理論的アプローチで、前期から使用する『政治学の第一歩』がそうした方法論にもとづいた教科書の代表例です。もう一つは歴史学的方法論で、後期にはまずその特徴を理解するために『国際関係史の方法』の一部を輪読します(近刊予定のため、第一回目の授業に持参は不要)。

2. 授業の到達目標

あなたが実際に読んだ論文が扱っているテーマを中心に――

- (1) 国際関係論／政治学の基本的な「ものの見方」を理解する。
- (2) 国際関係論／政治学の成果(新たな知見)について、説明できるようになる。
- (3) 国際政治学・日本外交分析の課題(まだ明らかにできていないこと)を説明できるようになる。

3. 成績評価の方法および基準

【個人得点】

- ①グループワークへの貢献度(司会、書記、タイムキーパー)
*一部ピア評価(学生間評価)を取り入れる。
- ②研究ノートの提出回数／内容(クオリティ)／『国際関係史の方法』の発表担当
- ③計3回のプレゼン報告会で質問した数

【グループ得点】

- ①プレゼンテーションの完成度(論理性・わかりやすさ、独創性;時間管理)
*一部ピア評価(学生間評価)を取り入れる。
- ②中間報告で質問された数

4. 教科書・参考文献

教科書

マーク・トラクテンバーグ 『国際関係史の方法』(近刊予定) ミネルヴァ書房

参考文献

砂原庸介、稗田健志、多湖淳 『政治学の第一歩』 有斐閣(有斐閣ストウディア)

小川浩之、板橋拓己、青野利彦 『国際政治史――主権国家体系のあゆみ』 有斐閣(有斐閣ストウディア)

5. 準備学修の内容

・2-4回:教科書の該当箇所に通し、簡単な読書メモを作成する。発表者担当者はプレゼンの準備をする(読書メモは不要)。

・5回:卒研の構想(最初期の簡単なもの)を所定のフォーマットにA4・1枚でまとめる。

・6-15回:卒研構想にそくした書籍のみずから選び、3冊を目標に読む。読み進めた内容は、毎週班内で毎回ミニプレゼンをする。3冊読み終わった段階で、3冊の内容から、卒研構想で仮定した問いに現時点でどのように答えられるか、10分でクラス全体に発表する。

6. その他履修上の注意事項

【取り組み方】

- ・演習であるので、毎回の授業への出席は必須。
- ・ただし座っているだけでは出席と認めないので、毎回必ず1度は発言する(練習と思う)。

【受講要件】

- ・未知のものへの熱意、好奇心。
- ・試行錯誤・遠回りを楽しむ気持ち。

7. 授業内容

【第1回】 自己紹介／演習の進め方と目的の説明／学術論文リストの配付とグループ分け

【第2回】 『国際関係史の方法』の輪読1――第2・3章を中心に

【第3回】 『国際関係史の方法』の輪読2――第4・5章を中心に

【第4回】 『国際関係史の方法』の輪読3――第6・7章を中心に

【第5回】 (オンライン)卒研構想の発表

【第6回】 課題文献の講読とグループ内発表

【第7回】 課題文献の講読とグループ内発表

【第8回】 課題文献の講読とグループ内発表

【第9回】 課題文献の講読とグループ内発表

【第10回】 課題文献の講読とグループ内発表

【第11回】 卒研中間報告第1回

【第12回】 卒研中間報告第2回

【第13回】 卒研中間報告第3回

【第14回】 卒研中間報告第4回

【第15回】 卒研中間報告第5回